

# 「色」という視点から、未来志向の地域教育と地域振興を模索していく取り組み

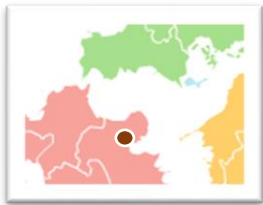
「地域の色・自分の色」研究会(照山龍治、木村典之、幸野洋子、山崎朱実、塩月孝子)十学習院大学教授 秋田喜代美

## 1. 取り組みの背景と目的

自然との関わり や 人と人とのふれあい が希薄となり、地域の人達は身の回りの自然(大地)や歴史文化 に関心を持たず、そこにある「ふるさとの宝物」を実感できなくなっている。そのため、「色」という視点から、未来を担う子どもたちと身近な自然(大地)や歴史文化 を捉え直し、そこに隠れている「宝物」を掘り起こし、未来志向の地域教育や地域振興を目指す。



## 2. 取り組みの方法(公益財団法人前川財団 2020 年度助成を受けて実施)



対象地は、別府市鉄輪地域。この鉄輪地域は、源泉数・湧出量日本一の温泉群がある別府扇状地の一角にある。豊後国風土記や伊予国風土記(逸文)に記載され、古くから世の中に知られていた。

この彩り豊かな温泉群(地獄めぐり)やその泉源である活火山、火山岩を活用した独特の市街地景観、そして火山を神格化した神社などを、「色」という視点から捉え直し、さらに、「顔料作り」や「たたき染め」で隠れている「色」も掘り起こし、繋ぎ合わせて、「色」の物語教材「ふるさと読本」を作成。写真の○は子どもたちと見つけた「色」。作成に合わせて、鶴見小学校で検証実践を実施。作成後は、明星小学校と明星幼稚園が協力して取り組む検証実践を行った。



## 3. 「ふるさと読本(ふるさとのたからもの)」の作成

この読本は、簡易な文章と写真、挿絵で構成された32ページの本。主人公がフィールドワークを行いながら、別府の「地獄めぐり」に纏(まつ)わる歴史や「色」の科学を探究し、それらを総合した絵画表現に取り組み、将来、自分だけの宝物になる「きれいなもの」を探すというものである。

その中には、「顔料作り」や「たたき染め」という体験コーナーも盛り込んだ。

